

# 啐啄 NO.709

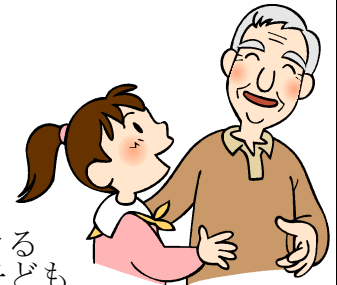
☎ 25-5125  
☎ 25-3150

## 「思いやりの心」について思ったこと

校長 峯 明 紀

前期も残すところ10日となりました。9月9日（日）には、早朝奉仕作業を予定していましたが、あいにくの雨となりました。それでも地域のボランティアの皆様には、早朝から集まっていたいただき校地周辺の草刈りをしていただきました。また、父親委員会の皆様には、PTA関係の荷物の移動・整理をしていただきました。本当にありがとうございました。

さて、9月17日（月）に大館地区の敬老会が開催され、本校のJRC委員会の子どもたち20人がボランティアとして参加させていただきました。大館中学校に集まってきた75歳以上のお年寄りや来賓の方々一人一人を、にこにこしながら席まで案内している姿は大変微笑ましく、会場の雰囲気を和ませていました。御来賓の八戸市長さんが、御祝辞の中でそのことに触れくださり、小学生が敬老会でお手伝いをしていることの貴重さも含めて、地域の行事や活動に児童生徒も一緒に参加できる地域づくり、地域の体制を誉めてくださっていました。本校の子どもたちにとって、このような活動を体験することが、今年度の学校目標である「思いやりの心」をさらに高めていくことにつながっているということを実感することができました。貴重な体験を後押ししてくださっている大館地区社会福祉協議会の皆様に、改めて感謝申し上げます。



「思いやる」ということについて、本校でのことではありませんが、私がまだばりばりと授業をしていた時分のことを思い出しました。

算数の時間に、「余りのあるわり算」で余りの処理の仕方を学ぶ勉強をした時のことです。その時間は、「学級の子どもたち33人を4人がけのいすに座らせるには、いすはいくつ必要か」という問題に取り組みせました。算数的には、 $33 \div 4$ で8つのいすでは1人座れなくなってしまうので、いすは $8 + 1$ で9つ必要という余りの処理を理解させる問題だったのですが、ある子どもが、この処理の仕方に強く抗議したのです。その子の主張は、「最後の1人の子がかわいそう」ということでした。どうしてか分かりますね。

そうです。4人ずつ座らせると、33人目の子どもは1人ぼつんと座らなければいけないのです。それがかわいそうだという意見でした。この意見を聞いていた子どもたちから、「最後は5人座ってもいいじゃないか」、「8つのうち3つのいすには、3人ずつ座らせよう」、「体型を考えて座らせよう」などの意見が次々出てきました。算数の授業としては大失敗でしたが、とても温かい気持ちになりました。そして、このような考えを出してくれた子どもたちを本当にかわいらしく思いました。



胸の中の「思い」は見えないけれども、「思いやり」は見えるといわれます。「思いやり」は積極的な行為だからだそうです。「思い」をしっかりと形にしていくことが大切です。「新井田っ子」一人一人が、自分の思いを形にできたらすばらしいことだと、敬老会への出席をとおして思った「長月」の一日でした。最後に大好きな相田みつをさんの詩を紹介します。

セトモノとセトモノとぶつかりっこすると  
すぐこわれちゃう  
どっちかがやわらければだいじょうぶ  
やわらかいところをもちましよう



「啐啄」(そったく)：「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音、  
「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。